



19 山本森之助《燈台》

一面

大正九年（一九二〇） 油彩、カンヴァス
八〇・三×一〇〇・三

《燈台》は、大正九年（一九二〇）の第二回帝展に《夏の漁港》とともに出品され、皇后宮職の御買上となった作品。山本は、この年の七月から九月にかけて房総を写生旅行し、その前年の大正八年に、房総半島南部で点灯を開始したばかりであった洲崎灯台を題材にして本図を描いた。夕陽が空を赤く染め上げる中、灯台や岬、入り江はすでに薄暗がりのシルエットへと変化しつつあり、昼から夜へと移ろいゆく直前の幻想的なひとときを見事に写し取っている。風景画家として光と影が織りなす繊細な表情の描写に強いこだわりを見せた山本の特徴がよく現れていると言えよう。当時の作品評の中には「例によって水の描写に精力をそ、がれてあるが、表面の完成されて来るに従って内面的に力弱いものになって仕舞ひさうなのを遺憾とする」（『日本及日本人』大正九年十一月号）と手厳しいものも見受けられるが、自然の中で移ろいゆく光や水の表情をありのままにとらえることは、確かに山本が精力を傾け生涯追求し続けたテーマであった。その態度は徹底していて、山本は自らのアトリエは設けず、常に写生旅行に出かけて制作に臨んでいたという。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ ― 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanjomaru Shozokan